

25 回ふれあいトーク (高岡流おもてなし PartⅣ～学生と地域がつながるものづくり～) 会議記録

- 1、日 時 平成 26 年 7 月 22 日 (火) 午後 6 時 30 分から 8 時
- 2、場 所 メリースマイルカフェ
- 3、出席者 21 名
クリエイティブ党 (富山大学芸術文化学部の学生グループ) の皆さん 16 人
富山大学の先生、前クリエイティブ党顧問の先生 3 人
高岡伝統産業青年会の会員 3 人
市長、産業企画課長、広報統計課長
- 4、会議次第
 - (1) 市長挨拶
 - (2) 出席者紹介
 - (3) 意見交換

意見交換

※クリエイティブ党

富山大学芸術文化学部の学生と高岡の職人がものづくりを通して伝統産業の新しい価値を見出し、創造・発信していく団体。毎年工芸都市高岡クラフトコンペティションに作品を出品することを目的としている。

※高岡 HUB (ハブ) 計画

富山大学芸術文化学部の学生でつくるグループで、高岡市を中心にたくさんの人たちが集い、つながっていく事を目的にクルン駅地下 B-1 を中心に活動している。

参加者

- ・ 高岡の魅力は、高岡の人が高岡を好きな点である。高岡伝統産業青年会の人も高岡出身学生も、高岡の自慢をしてくる。私は秋田出身だがそのように感じることは少ないのですごいことだと思う。

参加者

- ・ 高岡に来て地元企業でアルバイトで香炉製作の手伝いをしている。高岡は、ものづくりが分業制で行われており、複数の企業が関わり製品を作っている。企業同士の繋がりや、協力してものづくりをする意識が強いと感じる。異なる分野のものづくり産地が協力することは難しいが、高岡は漆と金属など、分野の違う産業同士が協力していこうという意識があり、素晴らしい。

参加者

- ・ 大阪から高岡に来て、イベントにスタッフとして参加した。クラフト市場町をはじめとして地域住民とふれあう機会があり、地域性が感じられて良いと思った。

市長

- 高岡の人は、高岡の自慢や誇りを口にはしないが、皆思っている。日本人の特徴として口に出さないところがあるが、私は、市長という立場からも一生懸命高岡の自慢をしてPRに努めている。高岡伝統産業青年会の皆さんも、高岡の良さを自信をもって自慢してくれて頼もしく感じている。皆さんが育ってきた場所と比べ、高岡の良いと思う点をたくさん見つけてもらい、里帰りの際には自慢したり、高岡に来てほしいと誘ったりしてほしい。皆で自慢できるまちにしていきたい。
- 学生の皆さんや高岡伝統産業青年会の皆さんが高岡を元気にしていこうと考え、活動してくれていることは頼もしい。ものづくりに関わる人達は共通するものがあり分かり合えるところがある。高岡だけでなく、氷見や砺波、彫刻の井波など、それぞれの文化があり、それらを大切に、まち同志仲良くしていきたい。
- 皆さんは勉強や創作活動で忙しいにもかかわらず、金屋町楽市などのイベントに参加してくれてうれしい。また、富山大学芸術文化学部の卒業制作展を市の美術館でやっている。一般の人が富山大学芸術文化学部のキャンパスに行く機会は多くないため、学生の皆さんがキャンパスを飛び出して地域に関わってくれることが嬉しい。いろいろなチャレンジをしてまちを元気にしてくれて感謝している。

参加者

- 今年4月から高岡に来て富山大学芸術文化学部の准教授をしている。高岡に来るまでは高岡と富山の関係性や、金沢との距離感がわからなかった。私は、民間出身であり、以前は講師として中部地区の大学を10か所ほど回った。その中でも富山大学芸術文化学部が一番印象深い。高岡は住んでわかる良さが多く、逆に言うと住まないといけない良さがあってもったいないと感じた。
- 最近はフェイスブックで知人達に富山や高岡をプロモーションする活動をしている。友人が月に1人くらいの頻度で高岡に来ており、地元の人と酒を酌み交わしたり高岡のおいしいところや良いところを案内し、高岡に良い印象をもって満足して帰ってもらっている。彼らをスピーカーに高岡のPRをしてもらいたいと考えている。

参加者

- 高岡は地域内の繋がりが強いと感じる。自分の地元には高岡のように市長や伝統産業青年会のメンバーなどと意見を交わす機会はなかった。高岡に来て世代を超えて関わることができ驚いている。自分が社会に出るときの関わり方や、地域について知ることができ、勉強になる。

参加者

- 私は岡山出身だが、高岡の人は気さくで温かく、優しいと感じる。富山大学芸術文化学部の学生であってもクリエイティブに入っていなければ、地元と触れ合う機会がないので、こういう機会があればもっと良いと思う。

市長

- 住んでみて初めて気が付くことや、わかることがある。高岡の人は、初めて会う人に対して慎重になり、人柄を確かめてしまうところがあるが、一度打ち解けてしま

うと一生の付き合いになることが多い。皆さんは、ものづくりのまち高岡と、文化、芸術、創作活動の共通点があることから、特に強く高岡への親しみを感じるのであろう。皆さんがキャンパスから出て、ものづくりに携わる先輩とコミュニケーションができていることは、大学の姿勢のおかげでもあり、素晴らしい。

- 学生の皆さんにとって、色んな人と触れ合う中で意見交換をし、自分と違う価値観を吸収し成長していくことは大切であるが、まちにとっても同じことが言える。居心地の良い人だけを集めては固まってしまうので、違う価値観を受け入れ刺激を受け、反発もしながら個性を出していくことが大切だと思う。
- 高岡は、ものをつくり、売り、ビジネスとして成り立ってきたまちであるため、人に来てもらふことや、作り方を見せることをしてこなかった。しかし、今は高岡伝統産業青年会の行うクラフツーリズムなどで、ものづくりの工程を見せ、良いものを作っていることへの信頼を得る努力をしており、その信頼が良い関係を生む。高岡は、これまで人を呼び込む取組みが不足していたと反省しているが、クラフツーリズムは、「来てほしい」「見てほしい」と発信しており、とても良い取り組みだと思う。新幹線が開通するが、黙っているのは、高岡に目的をもって来てもらふことができない。「来てほしい」というメッセージを発信することが大事である。皆さんにも、家族や友人に「高岡に来てね」や、「高岡は良いところ」とか、「楽しかった」と言ってもらえればうれしい。協力してほしい。
- その他、困ったことや、精神面で地域性が異なるなど感じたことがあれば教えてほしい。

参加者

- 私は、クリエイ党のほかに高岡HUB計画という団体に所属している。高岡HUB計画ではクルン高岡と一緒に、高岡駅が中心となってどうやって人を繋げることができるかという活動をしている。またクラフト市場街にも参加している。
- 私は、奈良県出身で、いわゆる文化都市の出身である。高岡が文化都市として土地や伝統、歴史をPRすることに違和感がある。一方、大学教授をはじめとして市外・県外から来た人や、高岡伝統産業青年会など、もともと高岡にいる人達が、高岡をプロモーションするために活動しており、「人」の資源の力を強く感じている。高岡は、「文化」で打ち出すより「人」を押すべきではないかと思う。
- 富山大学芸術文化学部の学生やクリエイ党に所属する学生は、高岡伝統産業青年会と関わってよかったと感じている。市は、高岡に関わる人を資源としてとらえ、人を発信するメディア型の都市となればよいと思う。

参加者

- 高岡の人は、方言を惜しみなく使っていて、暖かい魅力を感じた。私は、高岡まちっ子プロジェクトのシェアハウスに住んでいる。シェアハウスは、個人と共同のスペースがうまく分かれていて、生活の中に人の気配を感じられ、高岡に来てあまり寂しいと感じなかった。方言もあり、どこか懐かしくほっこりする。高岡での生活は、地元ではないのに地元のように受け入れられた感じがして、快適である。

参加者

- 高岡は祭りが多いと感じた。私は福井出身で、地元の祭りはあまりないが、高岡は1か月にいくつもの祭りが開催されるときがある。最近は何出七夕祭りに出かけたが、日本一美しい七夕祭りと言われるだけあって、田舎の街並みがある光景がよかった。

市長

- 人の情報を発信するメディア型都市というのは、よい切り口だと思う。メディアを通じて個人の人物像が伝わってくことで、その人への親しみや信頼感が生まれることがある。ソーシャルネットワークサービスなどは、その人との信頼関係が生じ、その中で様々な展開が生れることがあり、そこが面白いと思う。これは高岡伝統産業青年会が取り組んでいるクラフツーリズムに通じるところがあり、ものづくりを行う人達が自分の手の内を他人に見せ、その取り組みをメディアなどを活用して発信することで、高岡のものづくりや、つくり手に対する信頼が深まっていくのだと思う。
- 確かに奈良や京都の歴史や文化は、高岡と比べるとはるかに深い。また、歴史や文化はどのまちや場所にもあるため、単に「高岡は、歴史と文化のあるまちだ」と主張しても無意味である。しかし、歴史や文化は、「時間」と「空間」と「人」によって作られていくものであり、それぞれの時代、「高岡」「奈良」「京都」などのそれぞれの場所に、人が住むことによって文化が生まれる。時代、場所、人の組み合わせが異なると、生まれる文化も異なり、また、人と人との関わり合いによっても作られる文化が異なるため、それぞれにユニークな歴史や文化をもっている。それらの関わり合いの中に高岡の歴史や文化の良いところがあり、それを皆さんが感じ、自分の中に取り込んでくれていることを嬉しく感じている。
- 方言も一種のメッセージである。方言での会話は、相手が方言を使うと話しやすくコミュニケーションも深まる。みなさんが少し富山弁を使ってみてもらえれば、地元の人も方言で返しやすくなるので使ってみてほしい。
- 高岡まちっ子プロジェクトのシェアハウスに住んで、高岡の生活が寂しくないとの感想だった。マンションやアパートでは隣の住人を知らないことがあるが、シェアハウスはコミュニティとプライバシーの微妙な関係がうまくいっているのだと思う。
- 都会ではコミュニティが崩壊している地域もあるが、地方の暮らしは濃密であり、近所関係の煩わしさもあるが、地域の皆が支えあい、お互いメリットを受けることが大切にされてきている。良い意味で地域の中で支え合うことが大切である。地域に出向き地域の人と接するとき、コミュニティの中で子供やお年寄りに関わっていただけたらうれしい。
- 高岡の人は、祭りをとても大事にしている。祭りの多くは、神様に感謝したり祈ることを起源にしており、高岡の人は意識的か無意識的か、そういうことを感じているように思う。祭りにはそれぞれのリズムがあり、体に染み込んでいる。特に、そ

それぞれの町内に獅子舞があり、囃子を聴くと獅子舞のリズムが出てくる。獅子舞を地域のまとまりの中で大切にしてきたことが心地いいと感じてくれれば嬉しい。

- 戸出七夕祭りは、地元の人が竹を探すところからはじめて、自分達の手で作っているところがよく、地元の人には誇りに思っている。
- また、戸出七夕祭りは7月に開催したが、高岡七夕祭りは、8月に開催するため、ぜひ浴衣などを着て、高岡七夕祭りにも出向いてほしい。

参加者

- 富山大学芸術文化学部の教授をしている。高岡に来る前にいた長野と比べると、高岡は長い歴史を背景とした、伝統やコミュニティなどの縦型の繋がりが強い地域性があると感じた。そういう縦型の社会は、若い人の新しい挑戦が難しかったり、縦割り意識が強く内部での交流がないという特徴があるが、高岡の良いところは、コンパクトで顔が見えるところである。学生は、チャレンジに対する批判的な意見に触れることもあるが、高岡伝統産業青年会などの応援を受け、力を発揮することができる。後ろ盾になる人達がいて、若い人のチャレンジする力が集結すると、新しい面白いものを生み出す強い力となる。さらに、若い人達のチャレンジは、かすがいとなり、それを応援する伝統やコミュニティを結び付け、活性化する強い力にもなっている。このことから、高岡を、若い人達のコンパクトシティにできるのではないかと考えている。
- 若い人達のチャレンジ力に対して、行政や伝統産業の業界等が力を集結し、応援や活動のPRなど、盛り上げてくれると期待している。若い人をどれだけ応援し、PRできるかが、コミュニティ力のPRにつながるとも言え、これは、高岡と富山大学芸術文化学部の力の源であり、かつ、期待されているところでもあると思う。また、文化として、今後のチャンスにつながると思う。
- 現在、学生たちは、クラフト市場街に取り組んでいる。若い人達のチャレンジする力が集まると、イベントそのものが活気づく。高岡の伝統やコミュニティを構成する人達の力をうまく借りながら、クラフト市場街に挑戦したいという若い人達にチャレンジさせることができればよいと思っている。若い人の力を吸い上げることで、クラフト市場街をよりPRしていきたい。

参加者

- 私は、鋳物産業に携わっており、高岡伝統産業青年会で同世代の職人達と接する機会がある。技術や地場産業全体を含めて、受け継ぐことの大切さを身をもって表している人が多い。同年代の職人に会いに工場を訪れると、職人の親も一緒に働いており、その考え方など、親から子へ受け継いでいるものを感じる。今後は、受け継ぐことを意識して実践してくれる人が増えるともっと良いと思う。

参加者

- 高岡に住んで4年半になる。始めは若い人が遊ぶ所がないと思っていたが、だんだん地元の人と話すようになるとお洒落な店などを知るようになり、高岡を巡る楽しさを知った。地元の人にはローカルな楽しさを知っており、それぞれ楽しんでいる。

地元の人との交流で自分も高岡の良さを知ることができた。

市長

- 高岡市は富山市や金沢市から近く、高岡の良いところを楽しむことと、高岡に無いものを求めて金沢や富山に行くことを使い分けできることがよい。ほかの地域に無いものを高岡に求めてきてほしいと思っている。
- 高岡のまちができて 400 年間、ものづくりの仕事に携わる人がある。歴史ある高岡のものづくりの業界は、古い伝統をしっかりと守っている反面、新しいものへの抵抗があるのかもしれないが、高岡伝統産業青年会の人がかすがいとなって、乗り越えて行ってくれていると感じる。開町 400 年の記念行事の際、高岡伝統産業青年会が製作した前田利長公の銀鯰尾形兜を模した高岡大兜が一例であり、これは鋳物であるが、漆や螺鈿といった様々な分野のものづくりの技術が融合した作品であり、製作に苦勞をしながら完成された。
- クリエイティブ活動は、開町 400 年記念事業の後に始まったとのことで、最近の 4 ～ 5 年の間の、ものづくりの動きが早いと感じている。クリエイティブや高岡 HUB 計画のチャレンジが地域に根付いてきていることは大変嬉しく、市も応援したい。
- クリエイティブなど若い人達の活動が社会に認知されてきているが、一層認められるよう市も協力していきたいと考えており、そのきっかけづくりをしていきたい。また、クリエイティブの皆さんの力がかすがいとなり、いろいろなものが求心力をもってまとまってきていると感じる。
- 若い人達のコンパクトシティとはどういう意味か、教えてほしい。

参加者

- 若い人達のコンパクトシティについては、都心では遊ぶところが多く、若い人の興味や力が拡散しがちだが、高岡はよい意味で興味が集中しやすく、コンパクトになっている。ものづくりがある高岡の地域の魅力によるものだと思うが、ものづくりが好きな若い人達の結束力、求心力が集まると、面白い、濃密な力が生まれる。若い人達の力は、単独だと、古くからの既存の考え方や体制を動かすことができないが、クリエイティブ、高岡 HUB 計画、高岡まちっ子プロジェクトなど、若い人のチャレンジが集まると強い力になっている。
- さらに、新幹線開業を契機に富山大学だけでなく、北陸から学生が集まることになれば、それぞれのまちの力を凝縮し、北陸のコミュニティが集まれば北陸の中の物語ができ、それぞれが魅力あるまちにつながっていく。

市長

- 文化とは、地域に染み込んでいるものを掘り起こす作業があり、そこで香り立つものに人が集まっているというところがある。金屋町金属工芸工房かんかなどは、その一例であり、昔鋳物師が鋳物づくりを始めたところだから、ものづくりをする人が集まるという求心力が働いている。特にクリエイティブな活動経験や感覚を皆さんが持っていることから、そういう感覚を感じるところが大きいと思う。できれば、皆さんが集い、活動できる場を金屋町に作っていきたい。

- 大学の学術的な力は大きい。大学は、物事を学術的な知識に基づいて理論的に整理をして活動に反映させることができる。今後もぜひ大学の力をお借りしたい。
- 市においても、様々な活動から高岡ならではのものを抽出する作業をし、「高岡はこういう文化や活動を応援していく」ということをテーマにまちづくりしていきたいと考えている。市の応援に対して、実践した活動で返していただくというキャッチボールをしながら、活動と理論化のやりとりを行いたいと考えており、学生の皆さんにはそういう活動をしてもらいたい。
- 意識的に取り組むことは、大切なことである。日ごろの取り組みは無意識的に行っているが、意識的な実践は大切であり、市民の皆さんにも伝えていきたい。学生の皆さんにも意識をして実践していったほしい。そのような学生の皆さんの取り組みが、周囲の人を感動させ、応援する力になっていく。皆さんはそういうパワーを持っており、高岡伝統産業青年会も皆さんのエネルギーを受け止め応援しているのだと思う。力をもらいながら返していくという、良い関係を築いていったほしい。
- 富山大学芸術文化学部や、みなさん自身のそれぞれの活動を通して、キャンパスを出て地域の活動に関わってほしい。現在、大学と行政との連携を模索しており、行政も皆さんの取り組みをアプローチしてほしい。
- 大学では、まちづくりのカリキュラムを実施し、その成果報告をしてもらうことになっている。例年、皆さんのレポートを聴いて、実施してみたいと思うことが多い。皆さんの提案を1つ、2つでも受け止め、まちづくりに反映していきたい。皆さんの様々な活動を通して、提案してほしい。これからの行政も活性化していき、凝縮した連帯が生れていくと思う。

以上